**液化石油ガス設備工事届明細書（１ｔ未満のバルク容器による貯蔵）**

（液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律第38条の3）

|  |  |
| --- | --- |
| 特定液化石油ガス設備工事 | 　　　　　　年　　月　　日 |
| 事業届出受理年月日・番号 | 第　　　　　　号 |
| 設備工事業者 | 従事した液化 | 氏名 | 免状番号 | 最終受講年月日 |
| 石油ガス設 |  | 県交付 |  |
| 備士の |  | 第　　　　　　号 | 　　　　　年　月　日 |
| 氏名・免状 |  | 　　　　　県交付 |  |
| 番号等 |  | 第　　　　　　号 | 　　　　　年　月　日 |
|  |  | 　　　　　県交付 |  |
|  | 第　　　　　　号 | 　　　　　年　月　日 |

|  |  |
| --- | --- |
| 当該設備工事を行った | （名称） |
| 建築物の名称等 | （所在地） |
| 当該設備工事を行っ | （名称） |
| た建築物の所有者等 | （住所又は所在地） |
| 液化石油ガスを供給す | （名称） |
| る販売事業者の名称等 | （所在地） |
| 設備工事の | 　　　　　　　　年　　　　月　　　　日 |
| 完了年月日 |
| 充塡事業者 | （名称） |
| の名称 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 貯蔵設備設置等（該当個所に**✓印**又は必要な項目を記入すること） | 貯蔵設備 | 貯蔵能力：　　　　　　　　kg |
| （　　　　　　　　　kgバルク容器　×　　　　　　　　本） |
|  | □保安距離必要 |
|  | 　第１種保安物件：（名称：　　　　　　　　　　　） |
| 充塡設備の充塡 | 　　　（実寸：　　　　m）　法定距離1.5m以上 |
| 口からの保安距離 | 　第２種保安物件：（名称：　　　　　　　　　　　） |
|  | 　　　（実寸：　　　　m）　法定距離１m以上 |
|  | □保安距離不要（□構造壁等） |
|  | □JIS-A1304に定める30分加熱試験に合格するものと |
| 構造壁等 | 　同等以上の性能を有する建築物の外壁であり、かつ |
| ※保安距離不足の | 　最大２方向までの設置で地盤面に接しており、開口部がない。 |
| 　場合必要 | 　　幅　　　　　　m（バルク容器の幅　　　　m＋１m以上） |
|  | 　　高さ　　　　　m（バルク容器の高さ　　　m＋１m以上） |
|  | □液流出防止装置付き液取入バルブ　□ガス放出防止装置等の付 |
|  | いたガス取出バルブ　□ガス放出防止装置等の付いた液取出バル |
| バルク容器付属機器 | ブ（液取出バルブを設置する場合）　□ガス放出防止装置等の付 |
|  | いた均圧バルブ（均圧バルブを設置する場合）　□液面計　□過 |
|  | 充塡防止装置　□付属機器保護用プロテクター |
|  | バルク供給告示に定める基準に適合：別添メーカー仕様書のとおり |
|  | □表示事項：朱書きで液化石油ガス又はLPガス及び火気厳禁 |
| 表示 | □緊急連絡先 |
|  | 表示場所：□バルク容器　又は　□バルク容器の周囲 |
| 転落転倒等の | □スカート又はサドル等を基礎に設置 |
| 防止措置 |  |
| 基礎 | □基礎は平坦なコンクリート盤等で地盤面から５cm以上の高さ |
| 車両が接触しない | □さく・フェンス　□ガードパイプ　□周囲の状況から車の進入 |
| 措置 | が不可　□その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
|  | □開口部の位置はプロテクターの外とする。 |
| 安全弁の放出管等 | □開口部には雨水の浸入を防ぐ措置を講ずる。 |
|  | □開口部の方向は、上向きとする。 |
|  | 火気の名称： |
|  | 火気までの距離：実寸　　　　　　m |
| 火気制限 | □バルク容器の外面から火気まで２mを超える距離がある。 |
|  | □バルク容器の外面から２m以内にある火気をさえぎる措置を講 |
|  | じている。（□屋内の火気　□不燃性の隔壁を設置） |
| 屋外設置 | □バルク容器の屋外設置 |
|  | □日光の照射によって容器が40℃を超えて加熱されるおそれの |
| バルク容器を常に | 　ある場合は、常に温度40℃以下に保つ措置を講じる。 |
| 温度40℃以下に | □日光以外の熱源によって容器が40℃を超えて加熱されるおそ |
| 保つ措置 | れのある場合は、不燃性の隔壁を当該熱源と充塡容器等との |
|  | 　間に設ける。 |
|  |  | □要 | 集中監視システムとの接続しプロテクター内に設置 |
|  | □不要 | □地盤面上に設置し、その外面から周囲４m以内に、 |
| ガス漏れ検知器 |  | 　高さ1.5m以上の構築物その他漏えいした液化石油 |
|  |  | 　ガスの拡散をさえぎるものがないこと |
|  |  | □漏えいの有無を３月に１回以上確認 |
|  | □単段減圧式調整器：当該調整器をプロテクター内に設置 |
| 高圧配管内の液状 | □二段減圧式一体型調整器：当該調整器をバルク貯槽の |
| の液化石油ガスが | 　直近に設置 |
| 滞留しにくい措置 | □二段減圧式分離型調整器：一次側調整器をプロテクター内 |
|  | 　に設置 |
|  | □その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
|  |  | KHK認定番号 | メーカー名 | 型式 | 容量 | 製造年月 |
| 気化装置 | 有・無 |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  | 　年　 月 |
|  | 有・無 | メーカー名 | 形式 |  | 備考 |  |
| 緊急 |  |  | □特定地下街等：緊急遮断弁の設置が必要 |
| 遮断弁 |  |  | □特定地下街等以外の地下室等 |
|  |  |  | 　：供給を停止できるバルブの設置が必要 |
|  | メーカー名 | 形式 | 容量 | 製造年月 | 種類 ・機能 | □単段減圧式調整器 |
|  |  |  |  |  | □二段減圧式一体型調整 |
| 調整器 |  |  |  |  | 　器 |
|  |  |  |  |  | □二段減圧式分離型調整 |
|  |  |  | kg/h | 年　 月 | 　器 |
|  | メーカー名 | 形式 | 容量 | 検定期限 | 種類 ・機能 | □マイコンＳSB |
|  |  |  |  |  | □マイコンⅡＢＣＬＨ |
| メータ |  |  |  | 年　 月 | 　＋対震遮断器（マイコ |
|  |  |  |  | メータ個数 | 　ンに内蔵の場合あり） |
|  |  |  | 　 　/h | 　　　　 個 | □その他 |
| ガス漏れ |  | メーカー名 | 形式 | 備考 |
| 警報器連 | 有・無 |  |  | ガスメータに供給・消費・特定供給設備告示 |
| 動遮断装 |  |  |  | 第７条で定める機能がない場合、ガス漏れ警 |
| 置 |  |  |  | 報器連動遮断装置及び対震遮断器が必要 |
| 集中監視 | □プロテクター内検知器と接続　□メータと接続（□端末発信　□双方向） |
| システム | □無 |
|  | 材料（例示２８） | 高圧部に用いる管（材料の種類：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
|  | □圧力配管用炭素鋼鋼管（保護テープ・塗装・塗膜を施したもの）　□銅管（ピ |
|  | グテールに限る。）　□高圧ホース　□金属フレキシブルホース　□左記同等品 |
|  | 高圧部以外に用いる管（材料の種類：　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
|  | 露出部 |
|  | □白管　□被覆白管　□塗装白管　□黒管　□ナイロン被覆鋼管　□ポリエチレ |
|  | ン被覆鋼管　□被覆黒管　□塗装黒管　□銅管　□配管用フレキ管　□継手金具 |
|  | 付低圧ホース　□低圧配管用継手付金属製フレキシブルホース　□金属フレキシ |
|  | ブルホース　□左記同等品 |
|  | 埋設部 |
| 供給管 | □プラスチック被覆鋼管　□ポリエチレン管（貫通部はさや管その他の防護措置 |
|  | が必要）　□被覆黒管　□低圧配管用継手付金属製フレキシブルホース（床下設置 |
|  | 不可）　□配管用フレキ管（要さや管）　□左記同等品 |
|  | 壁、床等の内部 |
|  | □白管（空洞部のみ使用可）　□被覆白管　□塗装白管（空洞部のみ使用可） |
|  | □プラスチック被覆鋼管　□被覆黒管（溶接接合が必要な場合に限る。） |
|  | □塗装黒管（空洞部で溶接接合が必要な場合に限る。）　□銅管（要さや管） |
|  | □低圧配管用継手付金属製フレキシブルホース（空洞部のみ使用可） |
|  | □配管用フレキ管（要防護措置）　□左記同等品 |
|  | ドレン抜き | □自然気化　ドレン溜りの部分は、供給管の最大直径以上の直径であり、長さ |
|  | 　　　　　　20cm以上の管 |
|  | □気化装置　ドレン溜りの容量は５ℓ以上（一般消費者等の戸数が40戸以下の場 |
|  | 　　　　　　合は３ℓ以上） |
| 表示 | 施工後のプレート | □有 |
| 表示が必要な特定 | 　□２以上の消費設備に供給するための供給設備の設置又は変更工事 |
| 液化石油ガス設備 | 　□屋内配管４m以上となる消費設備の設置又は変更に係る工事 |
| 工事 | □無 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 気密試験 | 試験実施 | 年　月　日 | 気密試験立会者 | 所属 |
| 年月日 | 所 属・氏名 等 | 氏名 |
| 区分 | 規定 | 試験圧力・試験時間 |
|  | 自圧(メーカー成績書有りの場合) | □自圧・検知液にて漏れ確認 |  |
| 高圧部 | 又は　　　　耐圧試験 |  | □良　□否 |
|  | 2.6MPa以上(メーカー成績書無しの場合) | □　　　　　MPa 　分 |  |
|  | 0.15MPa以上 |  |  |
|  | 機械式自記圧力計使用の場合 | 　　　　　MPa 　分 | □良　□否 |
|  | □10ℓ以下・５分以上□10ℓを超え50 |  |  |
| 中圧部 | ℓ以下・10分以上□50ℓ超・24分以上 |  |  |
|  | 電気式ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑ式自記圧力計使用の場合 |  |  |
|  | □10ℓ以下・２分以上□10ℓを超え50 |  |  |
|  | ℓ以下・５分以上□50ℓ超・24分以上 | （チャート紙添付） |  |
|  | 8.4KPa以上10KPa以下 |  |  |
|  | 機械式自記圧力計使用の場合 | 　　　　　KPa 　分 | □良　□否 |
|  | □10ℓ以下・５分以上□10ℓを超え50 |  |  |
| 低圧部 | ℓ以下・10分以上□50ℓ超・24分以上 |  |  |
|  | 電気式ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑ式自記圧力計使用の場合 |  |  |
|  | □10ℓ以下・２分以上□10ℓを超え50 |  |  |
|  | ℓ以下・５分以上□50ℓ超・24分以上 | （チャート紙添付） |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  | □供給設備工事実施者に同じ |
| **消費設備** | 工事実施者 |  |
|  |  | □他事業者　名称： |
|  | １劇場、映画館、演芸場、公会堂その他これらに類する施設　２キャバレー、ナイトクラブ、遊 |
| 規則第86 | 技場その他これらに類する施設　３貸席及び料理飲食店　４百貨店及びマーケット　５旅館、ホ |
| 条に規定 | テル、寄宿舎及び共同住宅　６病院、診療所及び助産所　７小学校、中学校、高等学校、高等専 |
| する施設 | 門学校、大学、盲学校、ろう学校、養護学校、幼稚園及び各種学校　８図書館、博物館及び美術 |
| 又は建築 | 館　９公衆浴場　10駅及び船舶又は航空機の発着場（旅客の乗降又は待合いの用に供する建築物 |
| 物の種類 | に限る。)　11神社、寺院、教会その他これらに類する施設　12床面積千平方メートル以上であ |
|  | る事務所 |
|  | □風呂釜（□内　□外　□立消え安全装置付　□排気筒）　□GHP |
|  | □給湯器（□内　□外　□立消え安全装置付　□排気筒） |
| 燃焼器具 | □瞬間湯沸器（□内　□外　□立消え安全装置付　□排気筒） |
| ※ | □コンロ（□固定式　□移動式　□立消え安全装置付　□排気フード） |
|  | □その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 警報器 |  |  | 遮断弁・ |  |
| の設置 | □要□不要 | 設置個数　　　　　　個 | メータ等 | □有　□無 |
| ※ |  |  | との連動措置 |  |
|  |  | 特定ガス消費機器の種類 | 表示すべき項目 |
| 特監法第 | □要□不要 | □ガスバーナー付ふろがま | □特定工事業者の氏名、名称、 |
| ６条に規 |  | □ガスバーナーを使用することができる | 　連絡先 |
| 定する特 |  | 　ふろがま | □監督者の氏名、資格証番号 |
| 定工事の |  | □ガス瞬間湯沸器(12kwを超えるもの) | □施工内容 |
| 表示 |  | □ガス湯沸器(７kwを超えるもの) | □施工年月日 |
| ※ |  | □上記の排気筒、排気扇 |  |

* 届出者が工事を行っていない場合はわかる範囲で記入すること。

|  |
| --- |
| **供給能力計算書**：貯蔵設備、調整器、メータ、及び気化装置の容量の算定根拠を記載すること |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

**【参考】SI単位への換算　　圧力１kg/㎠＝0.1MPa　水柱100mm＝１KPa　消費量１kg/h＝14kw**